

2025 年 5 月 3 日(土)夜『神聖の眼を養う日』メール前文

5 月 3 日(土)夜より、『神聖の眼を養う日』というタイトルのプログラムを四週に一回開催します。このプログラムは、今年 4 月に入って以降、【神聖自覚 ～ 神聖を自覚して生きること】が私たちのテーマとして改めて打ち出されたことに連動して、私たちが肉体身に在りながら“神聖の視座に立った意識で自他や世界を見つめること”が、祈りのメンバーひとりひとりの課題として浮かび上がったことを受けてのプログラムとなります。

メインプログラムとしては、具体的に次のような内容のプログラムを行ないます。

- ① 各々の人間関係の中で誤って責任転嫁した反応をしたり、無関心や無表情を装って見て見ぬふりをしたり、目をそらし避けがちな自分像や、種々様々なリアルタイムの社会情勢、世界の動向、自然界の現状を取り上げ、それらをスライドにして画面に映し出します。
- ② そのスライドに映し出された画像や写真、文字を、傍観者ではなく当事者として見た瞬間に、自分が何を思ったかを観察します

A. 神聖の立場から俯瞰できず、個としての感情想念や特定の立場で何かを思った場合

→ その場で光明の言葉を唱え、その想いを打ち消す（神聖で上書きする）

B. 映し出された画像や写真や文字を、瞬間的に神聖の視座で観ることが出来た場合

→ 瞑目して世界平和を祈り、守護霊・守護神様に感謝する。

これは、1992 年 3 月に、その年の 5 月大行事（※現在の 7 月大行事に該当する行事）に参加するためのご神事として打ち出されたうちの『印を用いない光明思想徹底行』の応用であります。

※『印を用いない光明思想徹底行』について ～ 日常生活のなかで、神聖から外れた言葉・想念・行為が出たときに、「無限なる赦し」等の 49 の光明の言葉を声に出して打ち消す。

※49 の光明の言葉は、この文章の文末に表記しておきます。

どうして今、この内容のプログラムを行なうのかと申しますと、現在の私たちがとっさに発する正直な言葉・想念・行為が、神聖そのものの想念言動行

為になっているかどうかは、この“光明思想に徹底したモノの見方”が心に根付いているかどうかと密接に繋がっているからであります。

“印を用いた光明思想徹底行”もありますが、日々の生活の様々な場面で、例えば家庭や職場、友人や知人と交流している場面で、私たちが突然印を組んだとしたら、奇異な目で見られます。しかし、声帯を震わせながらも無声の声（ひそひそ声をさらに弱めた声）で「無限なる赦し」などの言葉を唱える分には、周囲の人に気付かれることなく、その場その場で想念意識の修正が出来ます。

今回から行なう『神聖の眼を養う日』のメインプログラムは、日常生活の中で私たちがとっさの場面で、突発的に起こった出来事や自他の感情想念の動きに対して業生の反応をした際に、すぐに神聖に立ち返る練習であり、やがては、何を見ても聞いても体験しても、揺るぎない神聖の視座から俯瞰できる私達でありつづけるに至る練習であるといえます。

例えば、私たちが気の置けない家族や友人から突然、「あなた、人が何かを言ったときに、いつも否定から入るわよね。それって、悪い癖だと思うよ」と言われたとします。そのとき、とっさに自分がどういった反応をするかを観察する意識を持つことで、光明の言葉で上書きすることが出来、消えてゆく姿で世界平和の祈りがはかどることにもなります。

これから数ヶ月、半年か一年ほどこのプログラムを四週間に一度行なうことで、皆様とご一緒に、裏表のない神聖の眼を養ってまいりたいと思いますので、お付き合いくださいますようお願い申し上げます。

また初回である今週の土曜日夜は、“光明思想に徹底した意識の用い方”をはかどらせる『般若心経の読み方』、『色即是空、空即是色の読み解き方』についても特集いたします。

下記に、『般若心経』として世に知られる難しい漢文を、私のほうで現代日本語に意識した文章を掲載します。それは、お釈迦様が舍利弗(しゃりほつ)尊者に本当にお伝えされた内容を、私達が現代語で理解できる文章になっています。五井先生のご著書『空即是色』にも現代語訳が出ていますが、それよりもさらに現代人に分かりやすく意識しました。

それを読むことで、『消えてゆく姿で世界平和の祈り』をはじめとした私達の日々の取り組みすべてが、実は『般若波羅蜜多(はんにゃはらみった)の教え』を行ない顕わす取り組みになっていたことが理解できると思います。

また、般若の智慧の観点を常住意識にすることで、二元対立を卒業した観点を身に修めることが出来ますので、日常生活に応用できる部分を読み解く読み方でお読みくださいますようお願いいたします。

摩訶般若波羅蜜多心經（般若心經）

一「智慧の完成についての最も肝要な教えを説きし聖典」

観音菩薩は、深遠なる「般若の智慧」を完成させる修行をしていた際に、“在ると思っていた人間の構成要素としての五種のもの（色・受・想・行・識）”がすべて実体無きものであり、それらを「無し」と断じ切ったその先に「空(くう)」の世界が広がっていることを悟り知り、あらゆる苦悩から解脱したのである。

シャーリプトラよ、五感に認識し得るすべての「色(しき)」は、実体なき影「空(くう)」なりと見極め、断じ切るがよい。さすれば影をあらしめる「空(くう)」の奥処(おくか)より、無限に広がる本来性の「色(しき)」の世界 – 神界の様相」が地上に映し出され展開するものである。

シャーリプトラよ、諸法の空相たるすべての存在は、本来無きもの「空(くう)」であり、それらは、生まれることも無ければ滅びることも無く、汚れることも無ければ清らかになることも無く、増えることも無ければ減ることも無きものであることを心に銘記せよ。

さらに明示すれば、実体が無いということの中には、形あるものはもちろんのこと、感覚・記憶・意志・知識といった精神作用も無く、眼・耳・鼻・舌・身体・心といった六つの感覚器官も無い。さらには、形・音・香・味・接触感・心の対象といったそれぞれの感覚器官の対象も無く、それらを受け止める六つの心の働き（眼識・耳識・鼻識・舌識・身識・意識）も本来性のものでは無いのである。

さらに言うなれば、迷いの世界「無明(むみょう)」も本来は無く、老いも死も無く、それらの終わりも本来は無きものであり、苦悩やそこから人々を解放せる四聖諦の道も本来は無きものであるのだ。そのように、元々得るものが無いのだから、智も得も無しといえるのである。

事程左様に、現象の真相を見ることが出来、かつ真理（般若）の智慧を実践したからこそ、悟りを求むる菩薩たちは心に把われが無く、把われが無いからこそ、恐れも無いといえるのである。地球人類もまた、そうした宇宙の真実を体得することで、あらゆる誤った考えや幻想から解き放たれ、本当の安らぎある涅槃に至るのである。

過去・現在・未来のすべての仏たちも皆、この「悟りの彼岸に至る真理の完全なる智慧」たる『般若波羅蜜多(はんにゃはらみった)』によって、修行者の最終目標、かつ究極の悟りである『阿耨多羅三藐三菩提(あのくたらさんみゃくさんぼだい - この上なく正しく完全な悟り)』を得たのである。

だからこそ、この般若波羅蜜多(はんにゃはらみった)の教えは、すべての苦しみを取り除くことができる、偉大で光り輝く、最も高く、比べるもののない真実の真言(マントラ)であるといえるのだ。

その真言は次のように唱えるがよい。

「ギャーテー ギャーテー ハーラギャーテー ハーラソーギャーテー ボージー ソワカ」

(意味：行ける者よ、行ける者よ、彼岸へ行ける者よ、完全に彼岸へ行ける者よ、御身らに悟りと幸あれ)

光明思想徹底行 49 の言葉

世界人類が平和でありますように

無限なる愛・無限なる調和・無限なる平和・無限なる光・無限なる力・無限なる英知・無限なるいのち

世界人類が平和でありますように

無限なる幸福・無限なる繁栄・無限なる富・無限なる供給・無限なる成功・無限なる能力・無限なる可能性

世界人類が平和でありますように

無限なる健康・無限なる快活・無限なるいやし・無限なる新鮮・無限なるさわやか・無限なる活力・無限なる希望

世界人類が平和でありますように

無限なる自由・無限なる創造・無限なる広がり・無限なる大きさ・無限なる発展・無限なるエネルギー・無限なる感謝

世界人類が平和でありますように

無限なる喜び・無限なる美・無限なる若さ・無限なる善・無限なるまこと・無限なる清らか・無限なる正しさ

世界人類が平和でありますように

無限なる勝利・無限なる勇気・無限なる進歩・無限なる向上・無限なる強さ・無限なる直感・無限なる無邪気

世界人類が平和でありますように

無限なるゆるし・無限なる栄光・無限なる気高さ・無限なる威厳・無限なる恵み・無限なる輝き・無限なる包容力

2025 年 5 月 3 日(土)夜『神聖の眼を養う日』プログラム詳細

【Opening Remarks】

斉藤：皆さま、こんばんは。土曜日夜の『神聖の眼を養う日』のプログラムを始めます。

このプログラムは、本日から始める新しいプログラムで、それぞれの人間関係の中で、つつい責任転嫁した反応をしてしまうような状況や、無関心や無表情を装って見て見ぬふりをしたり、目をそらして避けがちな自分像や、種々様々なリアルタイムの社会情勢、世界の動向、自然界の現状などの事象を取り上げて、それらをスライドにして画面に映し出し、それを見たときに私達がとっさにどういう反応をしているかを観察して、反応に応じて適切な対処が瞬時に出来るようになる練習がメインプログラムになります。

ですから、画面に新しいスライドが表示された際には、映し出された画像や写真、文字などは、自分が実生活のなかで見たり、聞いたり、体験した出来事として、傍観者ではなく当事者としてご覧ください。

また、神聖の立場から俯瞰できなくて、個人としての感情想念や、特定の立場に立って何かを想った場合は、その場で光明の言葉を唱えて、その想いを打ち消し、神聖の波動で上書きしてください。

逆に、映し出された写真や絵や文字を、瞬間的に神聖の視座で観ることが出来た場合は、守護霊・守護神様に感謝をささげ、「世界人類が平和でありますように」とお祈りください。

メインプログラムはその繰り返しになります。そのあとに、私たち自身の神我一体の完成へ向けて、神聖復活の印を組んでまいりますので、よろしくお願いします。

それでは時間になりましたので、初めに世界平和の祈りを日本語と英語で行います。



1. 世界平和の祈り

斉藤：それでは始めます。

世界人類が平和でありますように。

日本が平和でありますように。

私たちの天命が完うされますように。

守護霊様、ありがとうございます。守護神様、ありがとうございます。

May peace prevail on Earth.

May peace be in our homes and countries.

May our missions be accomplished.

We thank you, Guardian Deities and Guardian Spirits.



2. 色即是空・空即是色について

斉藤：はい、ありがとうございました。それでは神聖の反応を養う時間に入る前に、私のほうで意識した『般若心経』を一回、読ませていただきます。

摩訶般若波羅蜜多心経(まかはんにゃはらみったしんぎょう - 般若心経の正式名)

— 「智慧の完成についての最も肝要な教えを説きし聖典」

観音菩薩は、深遠なる「般若の智慧」を完成させる修行をしていた際に、“在ると思っていた人間の構成要素としての五種のもの（色・受・想・行・識）”がすべて実体無きものであり、それらを「無し」と断じ切ったその先に「空(くう)」の世界が広がっていることを悟り知り、あらゆる苦悩から解脱したのである。

シャーリプトラよ、五感に認識し得るすべての「色(しき)」は、実体なき影「空(くう)」なりと見極め、断じ切るがよい。さすれば影をあらしめる「空(くう)」の奥処(おくか)より、無限に広がる本来性の「色(しき)」の世界— 神界の様相」が地上に映し出され展開するものである。

「シャーリプトラよ」から後の部分は、「消えてゆく姿で世界平和の祈り」という言葉に置き換えるとわかりやすいと思います。

前半の「五感に認識し得るすべての「色(しき)」は、実体なき影「空(くう)」なりと見極め、断じ切るがよい」の部分は「色即是空」の説明で、「消えてゆく姿」のことです。

「さすれば影をあらしめる「空(くう)」の奥処より、無限に広がる本来性の「色(しき)の世界 – 神界の様相」が地上に映し出され展開するものである」が「空即是色」で、「世界人類が平和でありますように」のお祈りというふうに解釈すればいいと思います。

色即是空・空即是色というのは、「消えてゆく姿で世界平和の祈り」の実践を行なっていさえすれば、難しいことを考える必要はありません。

それは、「いいことも悪いことも全部表われて消えてゆく姿なんだな。守護霊・守護神様が表わして消してくださってるんだな。有り難いなあ。世界人類が平和でありますように」と徹底的に祈り込んでゆけば、この世の様々なことに把われていた自分の認識が消えていって、消えるに従って本心・本体の真実、神界の様相が自らの身の上に表われてくるからです。

ここの部分がわかりさえすれば、後は補足説明のようなものですので、読み進めます。

シャーリプトラよ、諸法の空相たるすべての存在は、本来無きもの「空(くう)」であり、それらは、生まれることも無ければ滅びることも無く、汚れることも無ければ清らかになることも無く、増えることも無ければ減ることも無きものであることを心に銘記せよ。

さらに明示すれば、実体が無いということの中には、形あるものはもちろんのこと、感覚・記憶・意志・知識といった精神作用も無く、眼・耳・鼻・舌・身体・心といった六つの感覚器官も無い。さらには、形・音・香・味・接触感・心の対象といったそれぞれの感覚器官の対象も無く、それらを受け止める六つの心の働き（眼識・耳識・鼻識・舌識・身識・意識）も本来性のものでは無いのである。

さらに言うなれば、迷いの世界「無明(むみょう)」も本来は無く、老いも死も無く、それらの終わりも本来は無きものであり、苦悩やそこから人々を解放せる四聖諦(ししょうたい)の道も本来は無きものであるのだ。そのように、元々得るものが無いのだから、智も得も無しといえるのである。

事程左様に、現象の真相を見ることが出来、かつ真理（般若）の智慧を実践したからこそ、悟りを求むる菩薩たちは心に把われが無く、把われが無いからこそ、恐れも無いといえるのである。地球人類もまた、そうした宇宙の真実を体得することで、あらゆる誤った考えや幻想から解き放たれ、本当の安らぎある涅槃に至るのである。

過去・現在・未来のすべての仏たちも皆、この「悟りの彼岸に至る真理の完全なる智慧」たる『般若波羅蜜多(はんにゃはらみった)』によって、修行者の最終目標、かつ究極の悟りである『阿耨多羅三藐三菩提(あのくたらさんみゃくさんぼだい - この上なく正しく完全な悟り)』を得たのである。

だからこそ、この般若波羅蜜多(はんにゃはらみった)の教えは、すべての苦しみを取り除くことができる、偉大で光り輝く、最も高く、比べるもののない真実の真言(マントラ)であるといえるのだ。

その真言は次のように唱えるがよい。

「ギャーテー ギャーテー ハーラギャーテー ハーラソーギャーテー ボー
ジー ソワカ」

（意味：行ける者よ、行ける者よ、彼岸へ行ける者よ、完全に彼岸へ行ける者よ、御身らに悟りと幸あれ）

はい、ありがとうございます。この『般若心経』の原文のなかに、『色即是空・空即是色』という箇所があります。その部分の最初の「しき」、「色」という漢字は、五感に感じるものの総称で、そのように「ある」と信じている物事を、「無し、無し、無し、無し」「空、空、空、空」と、断ち切って断ち切って断ち切って断ち切りつづけたその先に、空即是色の本来性の世界が広がっている、と説かれています。

これは、私たちが肉体界に生きながら、「あると思っていたものがホントはなくて、無いと思っていたものがホントはあったんだな」と、般若の智慧を働かせて悟りを開くことであるといえます。そこまで出来て、ようやく私たちは、神界の住人になれるわけです。

白光流に言えば、この世に生きていて何かを思ったときに、その想いをすべて徹底的に守護霊様に預けて、世界平和の祈りの響きの中に入り切る練習を繰り返すことで、「“あると思っているものは本来性のものではない”といつの間にか気が付けて、神聖に根ざした視座が甦ってくるにつれて、すべてが神聖の現われであると見えるようになる」ということです。

そしてそれが、色即是空・空即是色を知らない間に行ない顕わしているようになっているということでもあります。前回の『神聖で繋がり合う日』に、「私が私だと思っていた私は本当の私ではなかったんだなあ」という唱え言を紹介しましたが、それも色即是空の応用であります。

また、『人間と真実の生き方』『我即神也・人類即神也の宣言文』のそれぞれの冒頭に、断定的に書かれている人間本来の在り方を宣言する箇所や、「神聖復活、大成就」や「すべては完璧、欠けたるものなし、大成就」などの真言を唱えていることなども、「空即是色」と同じ意味であり、それらを唱えつけていることは、真理を心に刻みつけている行為であるといえます。

こうした受け止め方を復習する機会を持たなければ私たちは、日常生活の忙しさにかまけている場合には、見たもの・聞いたもの・体験した事すべてが現実だと思い込んでいて、なかなか「あると思うものは本来無きものであり、見えない生命(いのち)の世界にこそ本当のものがあるのだ」といった般若の智慧に根ざした観点を持つことが出来ないでいます。

ですから、時々こういった機会を持つことは、私達の生命の本来性を甦らせるうえで、効果的な機会であると考えております。

これから神聖の反応を養う練習の時間に入りますが、その際に、「私が“ある”と信じてきたこの世の出来事は本来の出来事ではなく、過去世からの因縁が現われて消えてゆく姿なんだな。そう思って守護霊様に浄めていただければ、そのうちに見えない生命(いのち)の世界の神聖が表面に顕われてきて、言葉・想念・行為に神の姿を顕わすことが出来るんだな」と思って、そのうえで次々と出てくるスライドをご覧ください。

習慣の想いというものは、せき止めようとしてせき止められるものではありません。もし自分の中にネガティブな“ものの見方”、“思考習慣”があるのに、「神聖の捉え方が出来ている」と思おうとしている場合は、それは、せき止められたのではなく、自分をごまかしていることになります。

私たち人類は、他人をごまかすことは出来ても、自分自身の本心や、守護霊・守護神としての内部神性をごまかすことは出来ません。ですから、自分の心の有りのままだを正直に見ることをとおして、光明の思考習慣を培ってまいりたいと思います。

白光の道を歩むうえでの肝である『本心と業想念の截然(せつぜん)たる識別』というお題を心の中心に置いて、裸の心でこのスライドの練習に向き合うことで、最初はネガティブな反応が表われるかも知れませんが、そのうち

に、二元対立を卒業した神聖の視座から物事を俯瞰できる私たちに変わってゆきますので、目の前の自己都合は守護霊様に預けて、ご自身の有りのままそのままの反応を観察してみてください。私からのお話はここまでです。渡久地さん、よろしくお願いします。

3. 神聖の反応を養う時間

渡久地：それでは神聖の反応を養う時間に入ります。始まりのお話でも説明しましたが、後から入られた方のために、もう一度説明します。

このプログラムは本日から始める新しいプログラムで、それぞれの人間関係の中で、つつい責任転嫁した反応をしてしまうような状況や、無関心や無表情を装って見て見ぬふりをしたり、目をそらして避けがちな自分像や、種々様々なリアルタイムの社会情勢、世界の動向、自然界の現状などの事象を取り上げて、それらをスライドにして画面に映し出し、それを見たときに私達がとっさにどういう反応をしているかを観察して、反応に応じて適切な対処が瞬時に出来るようになる練習がメインプログラムになります。

ですから、画面に新しいスライドが表示されたときには、映し出された画像や写真、文字などは、自分が実生活のなかで見たり、聞いたり、体験した出来事として、傍観者ではなく当事者としてご覧ください。

また、神聖の立場から俯瞰できなくて、個人としての感情想念や、特定の立場に立って何かを想った場合は、その場で光明の言葉を唱えて、その想いを打ち消し、神聖の波動で上書きしてください。

逆に、映し出された写真や絵や文字を、瞬間的に神聖の視座で観ることが出来た場合は、守護霊・守護神様に感謝をささげ、「世界人類が平和でありますように」とお祈りください。

メインプログラムはその繰り返しになります。それでは進めてまいります。

① ロシアによるウクライナ侵攻

画面の文字：ロシアは3年経った今も、ウクライナを攻撃しつづけ、無辜の民を殺傷しつづけている。ウクライナもまた、防衛のためにロシアを攻撃している。

② 近い人間関係

画面の文字：「あなた、人が何かを言ったときに、いつも否定から入るわよね。それって、悪い癖だと思うよ」と、親しい法友から言われた。

③ 社会生活のなかで

画面の文字：電車に乗っているときに、突然、足を踏みつけられた。

④ 街の中で

画面の文字：雨の日に道を歩いていて、道路を猛スピードで走る自動車から水しぶきをかけられた。

⑤ 自然環境

画面の文字：世界中の海の底には、マイクロプラスチックというミクロのごみが蓄積している。

⑥ 自宅にて

画面の文字：テレビを見ていたら、歩道の幼稚園児の集団に自動車が突っ込んで、数名の園児が死傷したニュースが映されていた。

⑦ 自宅にて

画面の文字：新聞を見ていたら、オレオレ詐欺の被害者が今も絶えないと報道されていた。

⑧ 街の中で

画面の文字：レストランに家族と食事に行ったら、品の良さそうなおじさんがクレーマーと化して、店員に鬼の形相で食ってかかっていた。

⑨ 街の中で

画面の文字：気が弱そうな男の子が、いじめっ子らしい男の子達から金品を巻き上げられているのを目撃した。

⑩ 自宅にて

画面の文字：伴侶から、自分の人格の中で、触れられたくないデリケートな部分を指摘された。（自分では欠点だと分かっているが、ついつい後回しにしている部分）

はい、ありがとうございます。今のような様々な場面は、その場になってみなければ、自分がどういう反応をするか分からない部分でもあります。そうした自分自身の隠れた反応は、小説や映画、音楽や絵画を見たり聞いたりしたときにも、そのときの自分の反応を観察することで確認することが出来ま

す。

そのように、あらゆる場面で自分自身の反応をいつも観察して、すべてに把われない意識を磨きあげることで、私たちは、すべてを消えてゆく姿と見て、感情想念に流されない神聖の意識を自らのものにすることが出来ますので、どうぞ日常生活の中に取り入れてみてください。

4. 人類神聖復活の祈り

渡久地：それでは最後に、心を込めて神聖復活の印を 7 回組みます。印を組んだ後に、その印をとおしていただいた光を私たち自身に浸透させて、肉体と心に染み渡らせる時間を設けますので、印を組み終わりましたら、そのまま目を閉じてお祈りください。それでは始めます。はい。

世界人類が平和でありますように。

人類の神聖復活、大成就。

世界人類が平和でありますように。

人類の神聖復活、大成就。

< 神聖復活の印を 7 回連続 >

< そのまま目を閉じて、21 秒瞑想する >

以上